



この写真（撮影＝橋野栄二）は下関駅長室に飾られている、下関中央工業高等学校2006年度卒業生約20名による爪楊枝約17万本を用いた点描画（タテ1m 80cm、ヨコ2m 25cm）を撮影したものです。作品のもととなった写真は昭和35年（1960）頃の下関駅前で、151系の昼間特急、山陽電気軌道のモ503もうかがえます。

かつての鉄道は大量輸送を実現した魔法つかいだった。

時を経て今も、それぞれの乗りこなし方に応じた夢を運ぶ。西のターミナルとして栄華をきわめた下関駅。

山陰線と山陽線、つまり陰と陽とが交わり、大陸とも中継したから、刻々と無数のドラマが生まれてきた。

鉄道のことなら何でもご存じなバリバリ鉄ちゃん、さっきまでパソコンに向かっていたカクレ鉄子さんに告ぐ。

下関ゾーンには、点と線との感動や出会いがひしめいているのです。

特集

# 鉄道の魔力

